

高分子材料の高速面衝撃試験

概要

プラスチック板状サンプルに高速かつ等速で衝撃を与え、発生する力と変形量を衝撃波形としてとらえる。振り子式衝撃試験と比べ、衝撃に関する多くのデータが得られる。

試験法

試験可能な範囲	試験片	得られるデータ	対応規格
衝撃速度: 1~15m/sec 測定範囲: ~10kN 試験温度: -40~120°C	120mm × 130mm 2mmt, 3mmt n=5	衝撃波形 衝撃強度[kN] 衝撃エネルギー[J] 弾性勾配[kN/nm] 変位置[mm]	JISK7211-2 (ISO6603-2) ASTM D3763

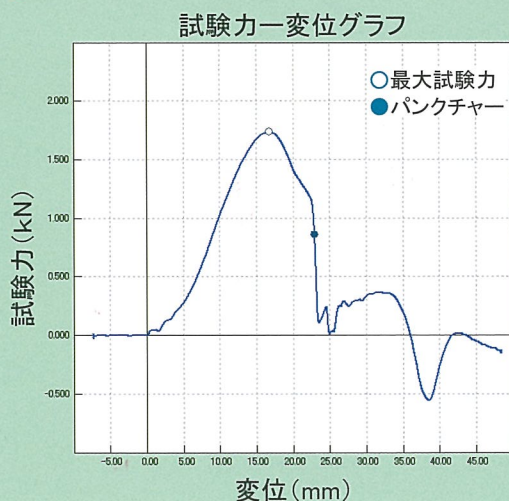
何が分かるか

- 衝撃強度から材料の持つ耐衝撃の強さがわかる
- 衝撃エネルギーから材料の持つタフネス(靱性)がわかる
- 衝撃波形から破壊形態(脆性破壊、延性破壊)がわかる

試料例

熱可塑性樹脂: PP、PC、PMMA、PS、ABS、PBT、NY など
 複合材料 : GFRP、CFRP など

測定例

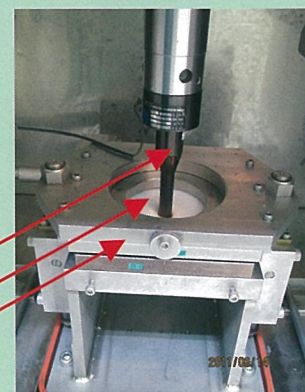


装置

試験機本体



測定部拡大



撃芯(ストライカー)
 試験片
 支持台

株式会社 三井化学分析センター

<http://www.mcanac.co.jp>

営業部 ☎ (03) 6860-3161